

令和6年11月19日

大仙市議会議長 古谷 武美 様

オーガニック学校給食を進める会

代表 石橋 小夜子
伊藤 明子
井阪 智
大山 かほり
佐藤 菜穂子
高橋 希美
富樫 佳典
深澤 智史
古屋 睦子
林 沙百合
松本 さとり

オーガニックビレッジ宣言に名乗りを挙げる陳情書

〔陳情事項〕

農林水産省ではみどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）創出を支援しています。オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村のことをいいます。このような先進的なモデル地区を順次創出し横展開を図っていく狙いがあり、令和7年までに100市町村、令和12年までに200市町村創出することを目標に全国各地での産地づくりが推進されています。そこで国の政策でもあるこの産地に、大仙市もいち早く名乗りを上げることが陳情致します。

〔陳情理由〕

人間は、食べた物から体がつくられます。体だけでなく、心と脳にも影響があります。例えばミネラル不足により、じっと座ってられない・イライラする・痛癢を起こす・無気力、無関心・体調不良を起こしやすいなどの症状が起こります。不登校の原因で最も多いのは、心身の問題です。中でも無気力・不安の訴えが多く、76.5%の児童・生徒と78.4%の保護者が原因として挙げています。

また、近年増加している子供の発達障害において、多くの要因が考えられますが化学物質や農



薬の影響もあると、多くの専門家が指摘しています。

そこで、身近に手に入る地産食材がオーガニックであふれていたら、自然とミネラル補給ができる機会に恵まれます。十分なミネラル摂取により酵素がうまく働き、神経伝達ホルモンや筋肉などが正常に機能し、心身の調子が整います。心身ともに健康状態を維持するためには、ミネラル豊富な大地で作られたミネラル豊富な食物を食べることが必要です。

以上の点から有機農業の生産から消費まで地域ぐるみで取り組むことは、子供達の健やかな成長につながり、気持ちや行動の変化にもつながることが期待できます。オーガニックビレッジ宣言をすることは健幸プロジェクトを掲げている大仙市にとって、より健幸を見出せるものとなり得るため陳情致します。